

7月1日 僕の好きな先生

忌野清志郎の初期の曲に「僕の好きな先生」という名曲がある。職員室が嫌いで、いつもたばこを吸いながら美術室で絵を描いている。遅刻、欠席を繰り返す劣等生の清志郎にステキな話を聞かせてくれる。先生らしくない先生。私の目指す教師像がそこにあった。

「先生、なんで先生になったん？」とよく生徒たちから尋ねられた。そのたびにこう応えてきた。「先生は今まで恩師と呼べる先生に出会ったことがなくて……。引っ込み思案で目立たなかった自分みたいな生徒の“恩師”になりたいと思って、教師を目指したんや」

勉強の苦手な生徒。内気な生徒。わざと反発する生徒。不安でたまらない生徒。助けてほしいのにどうしていいのかわからない生徒。見栄っ張りで臆病で、浅はかで、すぐ調子に乗る……。すべて私だ。私ならそんな子どもたちの気持ちがわかるのではないか。そう思って今まで来た。

この仕事について今年で32年になる。曲の先生のようにはたばこも飲まず、絵も描けず、破天荒に振る舞う勇気も持たなかった私。そんな私のことを“恩師”だと慕ってくれる教え子はどれだけいるだろう。

